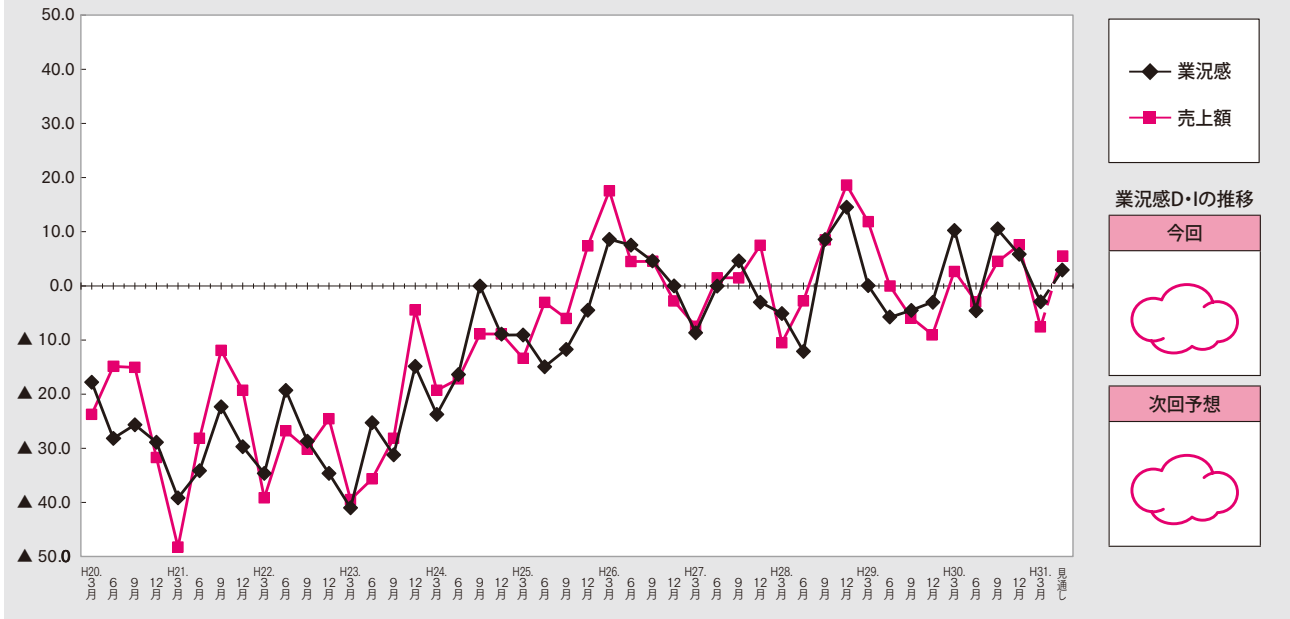


サービス業

Service industry

材料価格大きく改善

D・I推移グラフ(サービス業)



1 今期 (平成31年 1 - 3 月期)

今期の業況感は▲3.0(前期5.9)となり、マイナス転換により悪化。売上額▲7.4(前期7.4)、収益▲5.9(前期10.3)と共に悪化。料金価格は7.4(前期5.9)とプラスを維持。

材料価格は▲11.8(対前期▲20.6)と依然として上昇傾向にあるものの、資金繰りは▲4.4(前期4.4)と再びマイナスへ転換。人手不足は前期10.3、今期11.8と前々期に比べ改善中であるが、労働条件の見直し等による更なる施策が必要である。

2 来期の予想 (平成31年 4 - 6 月期)

来期の業況感は2.9となり、プラスへ転換見込み。業況の回復に伴い売上額、収益もプラスへ転換。来期に向けた前向きな姿勢が窺える。材料価格は▲13.2と更なるD・I値の低下が予想されるが、現在好調である料金価格でどこまでカバーできるかがポイントである。資金繰りは0.0ポイントと正常化となる見通し。今期に続き、人手・設備不足の改善が課題である。

DI値の推移 (過去1年と3カ月後の予想)

	H30. 3月期	H30. 6月期	H30. 9月期	H30. 12月期	H31. 3月期	来期見込み
業況感	10.3	▲ 4.4	10.3	5.9	▲ 3.0	2.9
売上額	2.9	▲ 2.9	4.4	7.4	▲ 7.4	5.9
収益	0.0	▲ 2.9	8.8	10.3	▲ 5.9	5.9
料金価格	5.9	▲ 5.9	8.8	5.9	7.4	7.4
材料価格	▲ 4.4	▲ 2.9	▲ 14.7	▲ 20.6	▲ 11.8	▲ 13.2
在庫	-	-	-	-	-	-
資金繰り	▲ 7.4	▲ 13.2	▲ 7.4	4.4	▲ 4.4	0.0
人手	11.8	19.4	20.6	10.3	11.8	16.2
設備状況	11.8	14.9	16.2	17.6	19.1	16.2

業況調査メモ

県内各地で古民家をリノベーションしたおしゃれな飲食店が増え、人気を集めている。築100年といった長い年月を経た古民家はたいてい太い梁や柱が使われ、欄間やガラス窓などにも職人技の細工が施されている。黒い光沢の柱や梁、高い天井、古い調度類などに囲まれながら、作り手たちの細やかな感性のこもった料理をいただくことは、スピードや効率優先の暮らしではっと一息つける。県内の老舗旅館のオーナーが「ゲストが求めているのは豊かさではなく幸せ。これからは傷んだ心を癒やす現代の湯治場が必要」と語ってくれたことがある。今のサービス業に必要な“原点”ともいえそうだ。